

科学研究費助成事業（基盤研究（S））研究進捗評価

課題番号	22225005	研究期間	平成22年度～平成26年度
研究課題名	転写・翻訳反応のQCM法による時間的解析	研究代表者 (所属・職)	岡畑 恵雄 (山形大学・大学院理工学研究科・教授)

【平成25年度 研究進捗評価結果】

評価	評価基準
A+	当初目標を超える研究の進展があり、期待以上の成果が見込まれる
○	A/F 当初目標に向けて順調に研究が進展しており、期待どおりの成果が見込まれる
A-	当初目標に向けて概ね順調に研究が進展しており、一定の成果が見込まれるが、一部に遅れ等が認められるため、今後努力が必要である
B	当初目標に対して研究が遅れており、今後一層の努力が必要である
C	当初目標より研究が遅れ、研究成果が見込まれないため、研究経費の減額又は研究の中止が適当である

(意見等)

“転写”や“翻訳”は多くの分子が関与する非常に複雑な多段階過程であるが、本研究はQCM（水晶発振子マイクロバランス）法を用いて、質量変化の観点から、これらの過程（必要因子の結合、反応の開始、ポリマー鎖の伸長、反応の終結、ポリマー鎖の解離など）を詳細に解析しようとするものである。研究は当初の計画どおり着実に進んでおり、また、生じた問題に対しても適切な対処がみられる。その意味で研究は概ね順調であるといえる。これにより、それぞれの素過程が定量的に理解できることになったことの意義は大きい。一方で、このような解析（精密化）の先に、さらにどのような展開（応用や予測など）が考えられるのか、この点について明確な展望が開ければ研究の意義は更に高まるであろう。

特記事項：上記の学術的な評価とは別に、本研究課題において研究代表者による研究費の不正使用が行われていたことが明らかになった。本研究課題において、研究代表者自らによる研究費の不正使用が行われたことは、誠に遺憾である。不正に使用された研究費はすでに返還され、不正使用を行った研究代表者の応募資格を一定期間停止したが、研究代表者は猛省し、今後、このようなことが絶対に生じないよう、姿勢を正していただきたい。